

第2回川口市総合計画審議会 会議録

会議の名称	第2回川口市総合計画審議会
開催日時	令和6年11月26日(火) 午後2時から午後4時
開催場所	第一本庁舎 601大会議室
出席者	<p>(会長) 伊藤会長 (副会長) 金井副会長 (委員) 箕輪委員、宇田川委員、若谷委員、芝崎委員、板橋委員、 廣瀬委員、福井委員、長堀委員、小嶋委員、長江委員、 山喜委員、宇佐美委員、浅羽委員、湯本委員、瀧澤委員、 安達委員、大関委員、岡本委員 (その他) 竹内政策審議室長、石田政策審議員、若谷政策審議員、 横野政策審議員、鹿岡政策審議員、 中村企画財政部長、稲垣次長兼企画経営課長、 宇田川課長補佐兼企画係長、藤木主査、船津主査、 菅原主任、豊島主事 三菱UFJリサーチ&コンサルティング西尾氏、杉山氏</p>
会議内容	<p>■ 開 会 ○議事 (1) 基礎調査結果概要について (2) 序論及び基本構想の骨子について (3) 第6次川口市総合計画案文について ①「3-1 川口市の沿革」について ②「3-2 川口市の特色」について ③「3-4 社会情勢の変化」について ○その他 ■ 閉 会</p>
会議資料	<p>次第 第6次川口市総合計画審議会委員名簿 第2回川口市総合計画審議会席次 資料1 基礎調査結果概要 資料2 序論および基本構想の骨子 資料3 第6次川口市総合計画案文 今後の審議会開催スケジュール(案)</p>
発言内容	<p>1 開会 2 議事</p>

【会長】

会議録署名人は、前回審議会にて会長のほか名簿順で2名と承認されたことから、本日の署名人は会長のほか宇田川委員、若谷委員の3名である。

前回の審議会で、第6次川口市総合計画の策定について、事務局から全体的な説明があった。本日は総合計画の具体的な中身について審議していくのに先立ち、これまでに実施された、社会情勢の分析、各方面へのアンケート調査の結果等について、報告を受けたい。

(1) 基礎調査結果概要について

【事務局】

基礎調査結果概要について説明する。第6次川口市総合計画の基本構想、基本計画の策定にあたって、今年度当初より様々な調査分析を行ってきた。庁内では、部長および各課に対し、第5次計画の成果や社会情勢の変化に伴う課題等についてのレビュー、また若手職員を対象としたアンケートを実施した。また市民を対象に、市民意識調査、各町会や子育て世代、外国人住民へのアンケートなどを行い、これらをもとに現行計画の成果、課題、要望等を抽出した。

概要について、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社より説明する。

【三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

資料1について、目次に沿って概要を説明する。

1. 計画の背景について、人口の推移は過去10年間で見ると60万人程度でほぼ横ばいである。コロナの影響で若干減少したものの、直近では増加している。年代別に見ると、年少人口は10年間で約1割減少している一方で老年人口は約1割増加しており、少子高齢化が緩やかに進行している。高齢化率は2024年度で23.0%だが、全国平均の28.8%に比べ5.8ポイント若い年齢構成となっている。

外国人人口は右肩上がり増加している。コロナの時期に減少したものの、直近の2023年から2024年では急激な勢いで増加している。外国人比率は2024年で全国平均の2.5倍程となっており、非常に特徴的な状況である。総人口が横ばいで推移しているが、外国人人口が増加していることから、日本人人口の減少をカバーし、全体として横ばいをキープしている状況である。

市内企業の産業者別従業者の推移は、総数としてはやや増加している。種別で見ると、卸売業・小売業や製造業は、全体の中で割合が高く川口市

の中心を担う産業であるものの、この10年でやや減少している。一方で医療・福祉産業はこの10年で2倍近く増加している。製造品出荷額について、従業者数が減少している中で出荷額は右肩上がり増加しており、全体として生産性が向上しているといえる。産業種別で見ると、主たる業種である「金属製品製造業」、「鉄鋼業」、「パルプ・紙・紙加工品製造業」、「生産用機械器具製造業」、「印刷・同関連業」の5つについても出荷額は増加している。

財政状況について、歳入歳出の推移を見ると、コロナ禍以降は横ばいから微増の傾向となっている。特徴的な点として、歳入について、収納率が向上しており、市税収入による財政基盤が確実に向上しているといえる。

2. ウェルビーイング指標（地域幸福度指標）について、アンケート調査による市民の主観指標と、様々な統計データによる客観指標を組み合わせで評価するという特徴を持つ。8ページ目右下のグラフは市における幸福度を5つの視点から総合的に偏差値で評価したものであり、50が全国平均となっている。「幸福度」、「5年度の幸福度」、「満足度」といった地域幸福度の観点では全国平均を上回っている。一方、「町内の幸福度」、「周りも楽しい」といった他者とのつながりの観点では全国平均をやや下回っている。主観指標と客観指標の比較についてまとめたレーダーチャートを見ると、「買い物・飲食」、「移動・交通」、「遊び・娯楽」などまちの利便性を表す項目については主観指標が高くなっており、市民が川口の強みとして捉えているといえる。一方で「多様性と寛容性」、「地域とのつながり」、「事故・犯罪」は主観指標が低くなっており、市民が川口市の課題として捉えているといえる。ただし、これら項目の客観指標を見ると50を超えているものがあり、これはイメージが実態よりも悪いことの表れである。例えば事故・犯罪について治安が悪いと感じる市民が多い一方で、犯罪認知件数はそこまで悪いものではない。こういった点については、状況の改善も必要であるが、それ以上に悪いイメージをどう払拭するかがまちづくりの課題となる。

3. 市民意識調査では、毎年度、計画の柱ごとに施策が進んでいると思うかどうかを聞いている。現計画の当初年度である平成27年度から中間点の令和2年度、直近の令和5年度の3地点で市民の評価の変化をグラフで示している。評価が高いものは、「安心・安全な上下水道サービスの提供」、「活気ある商業の振興」、「健康を育むまちづくり」といったもの。一方で、「環境の保全と創造」、「市民と行政の相互協力」、「行政経営の基盤強化」は比較的厳しい評価がされている。「高齢者の暮らしの安心・生きがいがづくり」、「誰もが安心して生活できる環境づくり」、「子どもがのびのび学べる

環境づくり」などは年々評価が上がってきている。一方で「環境の保全と創造」、「廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進」といった環境面についてはやや評価が下がっている。

4. 各種アンケート調査についてである。まず市内の全町会・自治会へのアンケートについて、地域環境に関する満足度と重要度を2軸でまとめている。右上部分は重要度・満足度がともに高く、川口市のまちづくりの強みであり、「学校などの教育施設や教育内容」、「地域の総合的な住みやすさ」、「身近な買い物の場や医療機関」は高い評価を得ている。一方で左下は重要度・満足度が低く課題が多い項目だが、特に満足度が低いものとして、「外国籍住民とのコミュニケーション」、「空き家の増加などによる安全性の低下」がある。更に重要な点は左上部分であり、市民が重要度は高いと考えているにも関わらず満足度が低い項目であり、「避難場所や避難路の整備」、「自然災害に対する備え」などの防災関係の項目が該当している。

町会・自治会の活動状況について、「住民同士であいさつが行われている」は8割以上と高い回答が得られた。一方で「住民が気兼ねなく地域の活動に参加している」はやや低い回答割合である。「様々な組織（団体・企業・大学・NPO）が地域の活動に関わっている」はかなり低い割合となっている。町会・自治会の活動は盛んであっても、様々な組織との連携は今後の課題となってくる。町会・自治会長の属性を見ると、70代が5割以上を占めており、役員のなり手問題が課題といえる。

川口市自治振興課で実施したアンケート調査では町会・自治体のイベント開催状況が年間20回以上の実施が56団体あり、町会・自治体の活動は活発であるといえる。課題として第一に挙げられているのは「役員のなり手不足」、「活動への参加者が少ない」、「未加入者や退会者が増えている」など、なり手や参加者についてである。

子育て世代のアンケート調査について、女性が約8割、年代が30代と40代で8割を占めているという前提でご覧いただきたい。就労状況を見ると、8割以上が就労しながら子育てを行っている状況である。子どもの数は2人以上が7割近くとなっている。住環境・子育て環境へのニーズについて、「住まいの周辺環境について重要だと考えること」では、「駅やスーパー・飲食店などの日常的に使う商業施設が近くにある」、「学校（小学校・中学校・高等学校）が近くにある」、「子どもが安全に遊べる場所がある」の割合が高くなっている。「教育環境や子育て支援について重要だと考えること」では、「良質な教育を提供する学校（小学校・中学校・高等学校）がある」が7割を占めている。

「川口市は子育てがしやすいと感じているか」では、7割もの回答者がし

やすいと評価している。理由としては、「買い物に便利」、「親類が近くに
いる」、「交通の便が良い」、「医療機関が充実している」などである。「これか
らも子育てをし続けたいと思うか」では、7割が「そう思う」と回答して
おり、川口市で現状子育てをしている人の大半にとっては、川口市は子育
てがしやすく、またこれからもしたいまちであるといえる。「子育てしやす
いイメージのあるまち」についても、川口市の回答は8番目に多く、子育
てしやすいまちとしてのイメージも定着している。

「これからも川口市で子育てをし続けたいと思うか」について子どもの人
数別で見ると、子どもの人数が増えるほど川口市で子育てをし続けたいと
回答する割合が高くなる傾向がある。

外国人住民へのアンケートでは、夜間中学の生徒からの回答が多く、15
~19歳の回答が半数を占めていることを前提にご覧いただきたい。「川口市
に住んでいる理由」では「電車やバスが便利」、「住み心地が良い」に加え、
「家族が住んでいる」といったことも上位に上がっている。「今後の居留意
向」では、7割以上の方がこれからも川口市に住むと回答しており、外に
出ていく予定の方はほとんどいない。

「困っていること・心配なこと」では、「日本語（読む・書く・話す・聞く）」
や「地震などの災害が起きたときのこと」の割合が高くなっている。「困っ
た時の相談相手」では、「家族」が2／3を占めており圧倒的に多いが、「同
じ国・地域の知人・友人」、「市役所・市の外国人相談窓口」も3割程度い
る。「川口市の外国人向けサービスのうち知っているもの」では、「ボラン
ティア日本語教室」が約4割と最も高いが、「分からない」も4割以上を占
めている状況である。「川口市の外国人向けサービスのうち使ったことがあ
るもの」では、「ボランティア日本語教室」は2割程度であり、知ってはい
るが使っていないサービスも多くある状況が伺える。

「川口市の好きなところ・もっと良くしてほしいところ」では、利便性の
高さや自然環境の豊かさが挙がっている。外国人と日本人の共生について、
「川口市では、外国人と日本人が助け合いながら生活できているか」では
6割が「そう思う」と回答しており、外国人からも助け合い・共生は一定
程度評価されていることが分かる。

「中高生未来を拓くふれあいトーク」では、中学生・高校生が市長との
間でトークを行い、中高生の意見を聞くという取り組みがなされた。
まず、4つの協議テーマについて、中学生から意見を述べ、市長が回答す
るという意見交換の形で進められた。内容として、ヤングケアラーの問題
やスポーツでは部活動の問題、身近な環境ではごみの出し方、安全の観点
では街灯やボール遊びなど、中学生の身近な視点からの提案が多く出され

た。続いて、川口市立高等学校の生徒から2つのテーマについてプレゼンテーションがあった。1つ目は川口市内の治安の改善が市の利益となるというもの。自転車の盗難数が多いことから、盗難を減らすことで体感治安が向上し、地域のモラルも向上するのではないかと、この提案であった。2つ目は多文化共生に関して、外国人住民に対するボランティアによる日本語教室に中高生が参加できるのではないかなど、中高生ができることを重ね合わせながら提案がなされた。

最後に庁内の職員向けアンケートでは、主任以下の若手職員に向けてアンケートを実施した。魅力・強み、課題・弱みでは、都市整備、市民生活、環境については強みでもあり課題でもある項目となっている。そのほか強みとして挙げられているのは産業や教育、課題としては防犯・防災が挙げられている。職員の意見をテキストマイニングで分析した結果、魅力では都心・アクセスなど利便性に関するものやグリーンセンターなどの緑地に関するものが挙げられている。課題としては外国人や治安が大きく出ている。

「川口市長だったら実施したい取組み」では、都市整備や子育て、安心安全、多文化共生といった項目で多くの意見が見られており、これらは若手職員の中でも市として積極的に進めていくべき分野として見ているものであるといえる。

【会長】

ただいまの説明について、意見・質問等はあるか。

【委員】

コメントとして、子育て世代へのアンケートの P22「川口市は子育てがしやすいと感じているか」について、保護者の性別と年齢で分けているが、市の支援は子どもの年齢に応じたものであるため、子どもの年齢に合わせた分析をしたほうがより傾向が見られるのではないかと。例えば男性50歳以上でも、子どもが未就学児と高校生とでは受けられる支援は異なるため、そのような視点から分析すると違うものが見えてくるのではないかと。

1つ目の質問として、外国人人口の推移について、前回資料において、「川口市には住民登録をしている外国人の他にも、在留資格が得られず「非正規滞在」となったものの、収容所外で生活をしている「仮放免」該当者が多くいると考えられており」とあったが、当グラフにはそれらの人は含まれているのか。含まれていないのであれば、それらの人の人数は市として把握しているのか。

2つ目の質問として、自身も子どもがいる子育て世代であり、市の治安

に関心が深い。子育て世代のアンケート結果や高校生、川口市職員アンケートからも治安が課題として出ていることが分かった。一方で、P9のウェルビーイング指標について、「事故・犯罪」の主観指標は客観指標よりは低いものの、もっと低い項目もあり、主観指標としてそこまで低くない印象を受けた。自治会向けアンケート調査結果でも、治安に対する満足度が低いという結果が出ていない。治安を重視している人がいる一方でそうでない結果も出ており、この結果が出た理由として、分析を進める中で出た考えなどはあるか。自身の考えとして、子育て世代のため治安に対してアンテナを張っており、事件があると怖いと感じるもの実際に住んでいる上で怖い目に遭ったことはないため、悪いイメージがついているように思った。色々な評価において、見方によって結果の差が出た、などがあれば伺いたい。

【事務局】

外国人人口のグラフは在留資格を持って住民として住民基本台帳に登録されている人数である。仮放免の取り扱いは非常に難しく、ここで回答することはできない。課題が多いことは認識しており何らかの形で計画に盛り込む必要はあるものの、市としてできることも限られている。

治安について、実際に様々な人に聞く中で、人によって感じ方は異なる。全体的に網羅的にアンケートを行っており、客観的に捉えた実際の犯罪認知件数に比べると治安が悪いと感じる人が多いのではないかと。客観的な指標をクローズアップして理解してもらえると、違う感じ方になるかもしれないので、それらも踏まえた上で計画にも何らかの形で盛り込みたい。

【委員】

様々な世代にわたって色々な立場の方に聞いていることがよく分かった。ただ人口数に比べると意見の総数が少ない印象を持っている。アンケート以外で広く市民の声を拾えるような、市民がざっくばらんに意見を言える市民会議のような機会があるとよいと感じた。

質問だが、自身はボランティア日本語教室で日本語を教えており、直接外国籍の方と交流している。P29の外国人向けサービスについて、知らないとの声が多く出ているが、私自身もよく分かっていない。川口市としてどのような周知を行っているのか。

【事務局】

周知の方法について、担当している協働推進課に確認し、次回審議会に

て回答する。

【委員】

外国人問題について、住民登録をする際に、マナー教育をする、また住まいのハウツー本を作って渡すなど、日本の住まい方を教える方法はないものかと考えているが、行政として、外国人と共生していくためにどうお知らせしていくのか、考えているものがあれば聞きたい。

【事務局】

個別事業の進め方はこの場での回答が難しい。現状、窓口でどのような情報提供を行っているのかなどについて、確認して次回審議会にて回答する。また今後の計画の本文でも度々出てくる内容だと思うので、その折にも内容を確認いただきたい。

【委員】

他に委員から質問等なし。

【会長】

質問いただいたものは次回、事務局より回答する。

(2) 序論及び基本構想の骨子について

【事務局】

資料2は総合計画全体の構成をまとめたものである。構成は、まず市長のあいさつ・目次・そして3序論・4基本構想・5基本計画・6資料編という組み立ての冊子が完成案である。

本日説明するのは、3序論・4基本構想を中心に、5の基本計画に繋がる部分の概要を説明する。

前回説明した通り、第6次総合計画の全体の組み立ては、第5次と同様に、基本構想・基本計画・実施計画の3層構造である。基本構想の計画期間は10年、基本計画の期間は前期と後期でそれぞれ5年、実施計画は3年を計画期間とし、毎年見直しを行っていく。

2ページ目は3の序論の骨子をまとめたものである。

3-1川口市の沿革では、地名の由来、産業の成り立ちなどについて記載する。

3-2川口市の特色では、立地環境や伝統産業等を記載予定である。第5次から追加したものとして、多文化共生や文化芸術、ゼロカーボンシテ

イ、SDGsに関する事項を特色として盛り込む予定である。

3-3 川口市におけるこれまでの主な取組では、近年の本市での中心的な動きについて、第5次計画の目指す姿ごとに分類して記載する。(1) 全ての人にやさしい“生涯安心なまち”では、保育所の定員の拡充、こども夜間救急診療所など、子育てに関する市の取組を挙げる。(2) 子どもから大人まで“個々が輝くまち”については、川口市立高等学校の開校、夜間中学の取組を記載予定である。(3) 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち”については、市産品フェアの実施、働きやすいまちづくりの推進について記載する。(4) 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち”については、戸塚環境センターの建設、グリーンセンターの再整備やイイナパークの開園等について記載する。(5) 誰もが“安全で快適に暮らせるまち”については、雨水貯留施設の整備、防犯カメラの増設、東消防署の開設などの内容を記載する。(6) 市民・行政が協働する“自立的で推進力のあるまち”については、新庁舎の建設、中核市への移行、市税収入額の増額、などについて記載する。

3-4 社会情勢の変化では、本市をとりまく社会情勢の変化を9項目に整理した。第5次計画で取り上げた内容は落とすことなく受け継ぎ、新たな流れを含めて再構築したものである。

3-5 まちづくり推進上の課題では、3-2、3-3、3-4を踏まえて、本市の捉えるべき大きな課題として8項目を記載している。のちほど説明する、新しい「目指す姿」と対応させる形としている。

最後の3-6 まちづくりの考え方では、3序論のまとめとして、各種基礎調査を通じて得た市民の意見と行政の視点を整理し、めざすべきまちづくりの方向性を示す内容としたいと考えている。

次ページは4の基本構想の骨子案についてである。

4-1 では策定の目的を簡潔にまとめ、記載する。

4-2 は総合計画の構成と期間であり全体像の姿を記載する。

4-3 は総合計画を策定するにあたっての、全体を貫く考え方、姿勢を表すものとして、3つの理念を設定した。4ページ目について、現行計画の、「市民とつくるまちづくり」、「多様な主体の共生共栄」、「多様な市民ニーズに的確に対応する市民福祉の充実」に相当するものとして、第6次計画では、新たに3つの基本理念を設定する。1つ目は、“市民との協働”に関する理念として、「市民とともに輝くまちづくり」。2つ目は、“市民の幸せ”に関する理念として、「みんなの笑顔輝くまちづくり」。3つ目は、“社会の持続性”に関する理念として、「いつまでも輝き続けるまちづくり」とした。自治基本条例の趣旨を尊重しつつ、現行計画の理念に、新たに持続

可能性というコンセプトを加えた3項目とし、わかりやすく表現したものである。

4-4目指すまちの姿では、将来都市像とめざす姿を設定している。まず、将来都市像についてである。5ページ目について、将来都市像は、これからの10年川口市がどんなまちを目指すのか、そのキャッチフレーズとなるもので、現在の「人としごとが輝く しなやかでたくましい都市 川口」に相当するものである。この将来都市像の案として3つ示している。本日の審議会では、この3つの案の中から、将来都市像としてもっともふさわしいものを決定したい。3つの案については後ほど詳細に説明する。3ページ目に戻り、将来都市像の下には本市のめざす姿として8項目を設定した。この8つのめざす姿が、基本計画における各章にあたるものである。現行計画ではめざす姿が6項目であったが、ここまでの序論で述べた社会情勢の変化に対応し、事業分野が多様化していることを踏まえ、8項目に整理した。このめざす姿の下に、それを実現するための施策や具体的な事業がそれぞれ展開され、ツリー状の構成となる。1つ目は、「誰もがお互いを認め合い、安心して暮らせるまち」とした。本市は、町会・自治会活動も活発で、地域の祭りやイベントなど住民同士の交流も盛んであり、彩り豊かな地域社会が形づくられている。こうしたコミュニティの多様性とつながりを強みとして生かし、誰もがお互いを認め合い交流することを通じて、防災・防犯意識を高め、災害発生時にも住民同士が連携して対応できる、安心して暮らせる多文化共生のまちをめざす、というのが1つ目である。この下に含まれる事業分野としては、コミュニティ、多文化共生、防災防犯、危機管理、消防等が展開されることを想定している。2つ目は、「子どもをみんなで育み、子どもが輝き活躍するまち」とした。子育てしやすいまちとして選ばれ続けるため、妊娠、出産から子育てまで切れ目のない支援を更に充実させ、希望する誰もが子どもを持ち、安心して子育てができるまちを地域全体でめざす、というものである。また、子どもたちがいかなる環境、家庭状況にあってもものびのびと学べる環境をつくり、子どもたちが笑顔で活躍できるまちをめざす。この下の事業分野としては、子育て、学校教育と若者政策を想定している。3つ目は、「学びと文化・スポーツがあふれ、自己実現できるまち」とした。本市には、リニューアルする総合文化センター・リリアや新たに整備する美術館等の文化芸術の創造拠点、既存の公民館や図書館、科学館といった生涯学習の拠点、青木町公園総合運動場、整備中の神根総合運動公園といったスポーツの拠点があり、文化・芸術に触れ、生涯学習や生涯スポーツに取り組んだりする機会や場所が身近に多くある。それらを生かして、誰もが自己実現できるまち

をめざす、というものである。この下には、文化推進、生涯学習、スポーツに関する事業分野を想定している。4つ目は、「ともに健康で、自分らしく生き生きと暮らせるまち」である。現在、人口構造や世帯構造の変化に伴い、市民の抱える課題も多様化・複雑化している。社会的孤立、ヤングケアラー、8050問題など、様々な分野横断的な課題が発生する中、市民・地域・行政が一体となって、互いに支え合いながら、誰もがすべてのライフステージで、自分らしく健康に生き生きと暮らせるまちをめざす。この下には、保健、医療、福祉に関連する事業分野を想定している。5つ目は、「賑わいと魅力があり、伝統と未来が響き合うまち」である。本市には、鋳物・機械をはじめとした製造業を中心とした地場産業があり、また、植木や造園といった緑化産業も特徴ある産業の一つである。一方、産業構造の変化に伴い、医療・福祉・サービス等、新しい多様な産業が展開されている流れを踏まえ、新たな魅力と賑わいが生まれるまちをめざす。この下には、経済、産業振興、雇用に関する事業分野を想定している。6つ目は、「緑が豊かで、うるおいとやすらぎのあるまち」である。本市の地理的、歴史的背景をもとに、本市ならではの都市機能や自然環境の共生を強みとして生かし、廃棄物の発生抑制やゼロカーボンの実現など、うるおいとやすらぎのあるまちをめざす。この下には、環境、みどり、公園などの事業分野を想定している。7つ目は「便利・快適で、ととのった都市空間のまち」である。駅周辺や郊外地域など地域ごとの特性に応じた都市整備を行うとともに、市内全域で交通ネットワークや上下水道などのインフラを整備し、災害に強いレジリエントな、誰もが便利で快適に過ごせるまちをめざす。この下には、建設、都市計画、都市整備、上下水道などの事業分野を想定している。最後に8つ目は「持続可能で自立したまち」である。これまで挙げた7つのめざす姿を実現し、計画を推進するための土台となる内容として、行政DXなど技術を活用して行財政改革を更に推進し、公共施設の適正な維持・更新を進める。また引き続き収税率の向上に努め財政基盤を安定させることで、持続可能で自立したまちをめざす。ここには、財政、情報、税制、人事、組織等に係る内容を盛り込むことを想定している。以上の8つのめざす姿の実現が、将来都市像の実現に結びつくという計画全体の構成となる。

序論および基本構想の骨子についての説明は以上である。

【会長】

今日は5ページ目の第6次川口市総合計画の将来都市像について、3案から決定することとなる。それを踏まえて、ただいまの説明について、意

見・質問等をもらいたいがどうか。

【委員】

2 ページ目の序論骨子の 3 - 4 社会情勢の変化について 2 点ある。

(5) 子ども・子育て施策の推進に教育の視点が入ると思うが、社会情勢の変化として不登校の子どもが多く、川口の周りでも多く見られるが、そういった不登校の子どもたちが増えているという視点をここに加えてはどうか。

(8) 脱炭素社会の実現について、ゼロカーボンシティ宣言と SDGs の 2 項目があるが、SDGs は 17 の様々な目標があり、そのうちの 1 つが脱炭素であるから、同列に入れるのではなく SDGs は例えば (10) として全体的で横断的な社会情勢の変化として、別建てにするのがよいのではないか。

【事務局】

骨子の中には「不登校」のワードは入れていないが、今後本文を書き進める中で不登校の増加の視点を加えたいと思う。

SDGs は取り扱いが難しく、環境的なことが大きく取り上げられがちだが、本来 SDGs は広くすべてに関わってくるものである。SDGs の表現について、最終的にどうまとめるかは課題として受け止めたい。

【委員】

これまでの課題で出てきていないもので常日頃から感じているもので、市の広報が弱いと感じている。市の公式 LINE も登録しているが、コロナ禍以降はほとんど発信がない。「広報かわぐち」や「トリコカワグチ」もあるがあまり活用されていないのではないか。市民の HP へのアクセス状況や SNS の活用状況も把握したうえで、効果的な広報をお願いしたい。

【事務局】

情報発信の仕方については、総合計画のことも含め、今後何らかの形で発信することを検討したい。

【委員】

3 ページ目の「将来都市像の考え方について記載予定」の下、めざす姿の 1 つ目の「コミュニティの多様性」について、町会活動が活発とのことだが、本当にそうなのか。まず町会の加入率はどうなっているのか。

まためざす姿 6 個目「緑が豊かで、うるおいとやすらぎのあるまち」で

は「本市ならではの都市機能と自然環境の共生を強みとして生かし」と書いてあるが、都市部の緑地部分が全くない中で一部の地区だけに緑地があることをもってそう言うことはそもそも違うのではないか。

【事務局】

町会の加入率は、令和6年度の状況で、全市で54.3%となっている。なお、平成27年度の約10年前は63.8%であったことから、10ポイントほど下がっているという状況である。長年町会活動が盛んであったという素地はあるものの、世代が進むにつれ加入率が下がりつつあるという状況はある。ただ防災や、子育てでも見守りなどで重要であると感じているため、これをどう上げていくかは担当部門で検討していきたい。

駅周辺など東京に近いエリアの緑と、イイナパークやグリーンセンター等の緑など、地域別に見ると濃い薄いはあるものの、駅周辺でも潤いのある、みんなが安らげる空間をどう作るか、また地域性のバランスのとれた都市整備はどうあるべきかを、地域計画を含めた基本計画に盛り込んでいきたいと考えているため、またその時になったらご意見をいただきたい。

【委員】

町会の加入率が下がっているのは間違いないので、町会だけに頼ることなくコミュニティを広げていかなければ、コミュニティを維持してまちづくりをするのは不可能になっている。どういうコミュニティを作るかが課題となってくると思う。

東京でも駅周辺には緑があるが、それは行政がつくっている。川口市には行政がつくった緑がない。ここに載せるのであれば真剣に取り組んでほしい。

【委員】

2ページ目の3-2川口市の特色について、表現はこれから審議するものと思うが、さきほどの意見に共感するところもあり、「活発な町会・自治会活動」は川口市の特色をどう見るのかということからすると検討が必要なのではないか。(3)豊かな文化・芸術環境についても同様に検討が必要である。川口市の実態とイメージが、総合計画を考える上で大事な視点と感ずるため意見した。

本日、基本理念を3つの案から決定したいとの提案があったが、タイトルは発信力や表現力など大事なものであると思う。そもそも今日これをこの3つの案から決めることとなった背景などを知りたい。本日の審議会で

決定をすることが難しいと感じたため意見した。

【事務局】

2ページ目の表現の仕方については、本文を深める中で慎重に言葉選びをしたい。

将来都市像の3案については、庁内の部長が集まる会議等で検討して3つに絞り、案として示したものである。どのような決め方にするかは、委員の意見を伺って決めるものではあるが、率直な意見・感性で選んでもらえればと思っている。本日決めるのが難しければ延期ということも考えられるが、この先の計画を執筆する上で、将来都市像は早めに決め、それを題目として各論を検討し、委員に示していくというスケジュールであることから、できれば本日決定したいと考えている。皆様の意見を伺いたい。

【会長】

3案の決定について意見があれば。

【委員】

3ページ目のめざすまちの姿について、すべて必要なことであるが、努力目標であるように思う。実現には財政的裏付けがないとできないものであると考え、第3案「産業と文化と自然が調和した輝きあふれるまち川口」の、工業と商業の発展という川口市の持続性に期待して、この目標に向かっていくのがよいのではないか。

【委員】

確認だが、将来都市像を決めるとのことだが、前回審議会でその旨発言していたか。また事前に資料は配られていたか、確認したい。

【事務局】

前回審議会では総合計画の全体構成と目次の案について示しており、3案は示していない。本会議に先立ち、当資料を1週間ほど前に事前に配布しているが、そこで3案を初めて提示している。

【委員】

資料を配布しただけで、事務局の説明として3案から決定することをアナウンスしたわけではないか。

【事務局】

資料を事前に配布するにあたっては、メール送信、郵送あるいは直接お渡しした委員もあったが、同じタイミングで進めた。あらかじめ3案をお示ししたうえで、本日の会議で皆様のご意見を伺いし、必要に応じてアンケートや投票の形でお伺いすることもある、という趣旨である。

【委員】

2ページ目の3-3(3)「産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち”」のタイトルの下に「市産品フェアの実施、働きやすいまちづくりの推進」とある。私自身商工会議所に所属しており、産業がとても大事であるのは重々分かっている上で、母目線では、子どもたちが川口の歴史や文化に触れ、郷土愛を育める、そんな川口っ子にしたいと思っている。タイトルはよいが、その下の説明内容が産業のことばかりとなっているため、もう少し川口の歴史・文化にも触れて、子どもたちが郷土愛を育む内容にしてほしい。

【事務局】

3-3(3)の矢印以下の内容を膨らませるということで承知した。

【会長】

3案について、意見はあるか。

【委員】

市民との「協働」を進める前提として、情報公開・共有が必要となる。「行政経営」のところだけで「協働」を出すと、行政の下請けとして捉えているイメージが強くなってしまふおそれがある。2ページ目3-3(6)や3-5などでも、「協働」を打ち出す際には、情報公開・共有に触れておくべきである。

【事務局】

計画書で「協働」を打ち出す際には、前提となる情報公開・共有について触れるようにしたい。

【委員】

地域コミュニティの形がかなり変化しているという発言があったが、同感である。自身は小学校と中学校の運営協議会委員長もやっているが、PTA

もそうだし、更に地域の公民館、地域のスポーツ団体の役員も形が変わりつつある。したがって、時代に即した新たなコミュニティ作りが肝になってくるのではないかと考えている。

町会を否定するものではなく、現実を直視すると、これからの町会加入率の向上は難しいと思う。そう考えると案3か。もっとよいものがあればとは思いますが。

【委員】

全ての案に「輝き」が入っているが意図はあるのか。

【事務局】

3つの案の説明をしていなかったため簡単にする。

1つ目は、「つながりがやすらぎと輝きを生むまち 川口」である。これは、都心の近さという地理的なつながりや人のつながり、次世代への時間的なつながりをそれぞれ「つながり」と表している。体感治安の向上、子育てのしやすさ、緑があるまちを「やすらぎ」と表している。また、駅周辺の開発、産業界を中心とした経済の活性、教育の場面や生涯学習などの市民1人ひとりの「輝き」を表現している。駅前が賑わっている経済的な活力や子どもの笑顔の輝きなど、色々な意味が期待されるということで「輝き」が出てきた。

2つ目は、「つながり 輝く 魅力と活力を創造するまち 川口」であり、1つ目と同様の「つながり」と「輝き」ということばを用いて、その「つながり」と「輝き」から川口市の魅力と活力を創造していくというイメージを表現している。

3つ目は、「産業と文化と自然が調和した 輝きあふれるまち 川口」であり、多様化する産業に、豊かな緑や文化が調和し、未来につながるというイメージを表現している。

【会長】

先ほど委員から本日決めるのかとの意見があったが、この案以外から決めるというのは大変でもあるので、ここで決めてよいか。あるいは委員が考える時間が必要なため延期とするか。異論がなければ本日決めたいかどうか。

【委員】

子どもが夏休みの宿題で作文を書くとき、内容を書いてからタイトルを

決めることもある。下の細かい政策を進めていく中で、タイトルを決めるタイミングはないのか。初めに一番上のタイトルを決めないといけないか。

【委員】

やり方として、仮置きとしていったん決定しておいて、議論を進める中で最終的に修正が必要であれば修正するという方法も考えられる。

【委員】

今までの議論を聞いて進め方について学識経験者の委員の方からご意見・アドバイスがあればお聞きしたい。

【委員】

まずこの場の委員は同じ立場なので、資料配付のタイミングが違っていて、委員の間で理解が食い違うことのないようにしてもらいたい。

できれば事前に、本日決めたいとの話があったらよかったと思うが、ここで議論して決めるやり方や、他の委員からあったような、議論を積み上げてから決めるやり方、事務局で大枠を決めるやり方もある。ここで大きく議論が分かれるということがなければ、本日委員の意見をもらい、3案の中からどれがよいかを考え、その後の議論を受けて、後日変える必要があれば変えるという進め方が流れとしてはよいのではないか。

【委員】

事務局からあったように、これを決めないと次の会議が進まない状況なのであれば、ここで大枠を決めるべきだと思う。

【会長】

仮に決める、という考え方で、議論の中で意見が出ればチェンジするというやり方が現実的と考えるがどうか。

【委員】

資料1ページ目を見ると、基本構想の中で4-3「基本理念」があり、4-4に「目指すまちの姿」がある。4ページ目にて基本理念と内容が掲げられている。この基本理念と、これから決定する将来都市像について、大事なつながりがあり、大切にしたいと考えている。基本理念と将来都市像のつながりなどがあれば説明してほしい。

【事務局】

基本理念は計画全体を貫く基本的な姿勢である。ここで示されている考え方と将来都市像は全く別のものではなく、関連性が相互にあることを念頭に考えてもらうため、資料をつなげている。

先ほど会長からあったように、計画策定の中で違和感があれば立ち返って再検討する可能性はあるが、将来像をもとに計画的に積み上げていくことから、できれば今日の時点での委員の意見を集約し、仮の決定をしてその後の作業を進めたいがどうか。

【会長】

事務局から提案があったが、最終決定とはいかないまでも仮置きし、議論を進める中で意見があればそれも入れていくという進め方で進めたいがどうか。

【委員】

異議なし。

【事務局】

投票用紙を配付するので、現時点で3案のうち最もふさわしいと思われるものを一つお選びいただきたい。

【委員】

基本理念については検討するわけではなく、これは確定ということか。大きなポイントは賛同するが、言葉の表現で分からない部分もある。「輝く」の言葉があるが、①「市民とともに輝く」、では何が輝くのが分からない。③も同様である。もっとストレートに表現した方がよいのではないか。表現について確認するタイミングはあるのか。

【事務局】

基本理念についてはそれが意味することを本文で詳しく説明する箇所も設けるため、改めて確認をお願いする。

(回収・集計)

【事務局】

案1が5票、案2が6票、案3が8票、無回答1票であった。一番票が

多かった案3で仮置きとしたいがどうか。

【委員】

異議なし。

【会長】

投票の結果、案3とする。

(3) 第6次川口市総合計画案文について

【事務局】

前もって送付したものを修正し、本日机上に配布している。この最新案をもとに議論したい。ボリュームがあること、また時間の関係から、当資料の3-1「川口市の沿革」、3-2「川口市の特色」、3-4「社会情勢の変化」について、委員にこの場で意見を聞くのは難しいため、意見を記入するフォーマットを事務局から送るので、それに意見を書き、事務局に送り返してもらえればと思うがどうか。

また次回会議は1月となってしまう。残る3-3、3-5、3-6についても同様の案文を送付するので、3序論全体について確認し、意見があればフォーマットに記入・返送してもらい、それを事務局で取りまとめて修正したものを次回会議で確認いただくのでどうか。

【会長】

本来であればこの場で議論するものであるが、時間が押していることから、ただいまの案でどうか。

【委員】

異議なし。

3 その他

【会長】

次回審議会は、1月31日金曜日の午後2時から、会場は本日と同じ第一本庁舎601会議室開催となるため、ご出席をお願いしたい。

【事務局】

手元の審議会開催スケジュールについて、第4回審議会日程が決定したためお知らせする。日には2月21日の金曜日、時間は13時からである。

ご予約をお願いしたい。令和7年度については調整中のため、順次確定し次第お知らせする。

先ほど資料を送付すると申し上げたが、12月中旬を目途に、次の分も送付予定である。今回分と次回分をまとめて、次回審議会の2週間ほど前の1月中旬までにご意見いただければと思う。詳細は送付資料に記載する。

【委員】

可能であれば、スケジュール表のそれぞれの回に、何を検討・決定するのか、議題の大きな流れを入れていただきたい。

【事務局】

あらかじめ心づもりしておいていただく意味でも、各回の議題をなるべく記載するようにしたい。

4 閉会